

私たちは今、なぜこの金山地区のまちづくりを考えようとしているのでしょうか？

日本各地には、シャッター街になってしまった商店街や空き家になってしまった住宅地の話がちらほら。

しかし、金山のまちはこのままでも十分楽しく、便利です。

しかも、道を一筋入れば、静けささえも感じることができます。

ではなぜ今、まちづくりについて考えるのでしょうか？ 漠然とした焦燥感からでしょうか？

本日は中部大学の服部敦教授をむかえて、その答えを探そうと思います。



本日の先生： 服部 敦 さん

中部大学工学部都市建設工学科教授  
1967年愛知県犬山市生まれ。工学博士。  
東京大学工学部都市工学科卒業。建設省を経て、内閣官房・内閣府で特区・地域再生を担当。2007年に退官し、以来現職。  
都市計画、都市デザインに関する教育・研究のかたわら、各地のまちづくりのプロジェクトに企画、マネジメントの立場で参加。

## Urban Activity Design

私は、元々は都市計画のような制度ではなくアーバンデザインを専門とし、都市空間の設計や景観デザイン、まちづくりを手掛けていました。しかし、まちづくりを実践する中で、空間のデザインに先行してアクティビティ（取り組みや活動のこと）をデザインする必要があると感じ

じるようになりました。以来、アーバンデザインではなくアーバンアクティビティデザインを提唱し、実践しています。

今回の講演会では、関わったプロジェクトや参考事例を紹介しながら、まちづくりにおいてアクティビティをデザインすることの大切さを話そうと思います。

### 金山の思い出

私が小学生だった頃、月に一回、犬山からいりなかの教会に通っていたんですよ。金山橋にあるバス停を利用していたんですが、バス停の前にあやしい屋台があってね。マムシとかトカゲを焼いたのとかを売っていたんです。

これが「金山」の強烈な印象として残っていますね。

当時から金山はいろんな文化が集まる異文化交流の結節点だったのかな。



まずは、まちづくりの拠点となっている二つの施設についてのお話です。

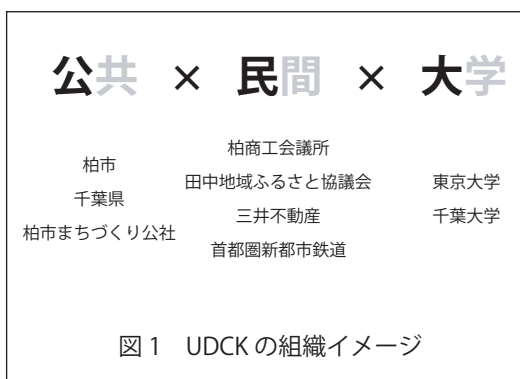
## —アクティビティを空間デザインにつなげる

### UDCK

(柏の葉アーバンデザインセンター)

UDCKは千葉県のつくばエクスプレス柏の葉キャンパス駅前地区のまちづくりに関わるセンターです。つくばエクスプレスの駅が建設されただけの更地状態だったこのエリアに、まちづくりの仕掛けとしてUDCKが2006年に設立されました。

UDCKでは、公共・民間・大学の連携をはかり(図1)、研究や学習、エリアデザインやエリアマネジメント、事業創出など数多くのプロジェクトが同時並行的に手掛けられています(図2)。子どもがまちなかで職業体験を通じてまちの運営を学ぶ『ピノキオプロジェクト』や、自転車



や電動バイクなどを共同利用するシステムである『モビリティ・シェアリング実証実験』等々。これだけ多くのプロジェクトが次々と立ち上がり実施できているのは、民間企業による資本投資や人的支援などの全面的後押しがあったからこそです。

UDCKでは「この街では面白いことが起きる」という都市のブランドイメージを立ち上げて、デザインし、対外的に情報発信することに力を入れています。これこそがUDCKで複数のプロジェクトがすすんだ要因なのです。また、こうした多様なアクティビティが生じた結果、みんなが活動する空間が必要とされるようになり、空間設計へとつながっているのです。

## —アクティビティを情報デザインにつなげる

### smt

(せんだいメディアテーク)

smtは図書館を中心として、ギャラリー、プラザ、スタジオ等から構成された仙台市内にある複合施設です。この施設にも多様な人々が集まり、数多くの活動が行われていますが、最新メディアを駆使しながらこれらの活動を情報発信している実験性こそがsmtの特徴です。まさに、メディアを実体験する博物館。

近年では、観たり聴いたりするだけでなく、博物館が持っている情報収集機能を活かして分析や発信をするまちづくりの拠点施設が増えてきましたが、smtはその先駆けの一つといえるでしょう。

smtもUDCKと同じように様々なアクティビティを生み出していますが、こうしたすべてのプロジェクトにアイコンやロゴマークが作られています(図3)。こうして活動にロゴマークを与えてシンボル化し、みんなで共有することがプロジェクトには大切なのです。



図2 UDCKで行われたプロジェクト



図3 smtで行われているプロジェクトのロゴマーク

【smt HP より転載】

## 一つなぐ・情報化する

この二つのまちづくりの拠点にみられるように、関係者をつなぎ、プロジェクトをデザインするとともに情報化して発信をすることが、多様なアクティビティを絶えず創出する秘訣なのだと考えられます。

さて、ここからは私の最新プロジェクトである、まちづくりについてのお話です。

## —アクティビティから まちを再生する

### 高蔵寺

### リ・ニュータウン

春日井市にある高蔵寺ニュータウンは、戦後日本を代表する三大ニュータウン開発の一つです。この頃に開発されたニュータウンでは、現在、高齢化やゴーストタウン化が危惧されているものもありますが、高蔵寺ニュータウンにおいては、まだそんな段階にはいたっていません。ただ、新しい人が入ってこないという問題は生じています。今、高蔵寺には住宅地としてのブランド的魅力がなくなってきているので、このままにしておくと、まちとしての活気が失われることが危ぶまれます。

私は春日井市の市政アドバイザーとして、この高蔵寺ニュータウンの再生計画に携わっています。まず、プランを作る前に、関係者をつなぎ合わせるころからスタートしました。中学校区単位で「まち語りサロン」を開催して、地域の方々の声を聴いて回りました。またUR都市機構や春日井市役所の間で、まちづくりに関する覚書を交わしています。人をつなげるために2年余りを費やしましたが、関係者がつながって一体感ができたところで初めてマスタープランを作り始められるのです。

次なる一步としては、小学校の統廃合によって生まれた空き施設を活用してまちづくりの拠点をつくることを考えています。そこを運営する「まちづくり会

社」を民間と行政の資本をいれて立ち上げる計画をしています。このまちづくり会社が高蔵寺ニュータウンのアーバンデザインセンターになるように、まずは多様なアクティビティの創出の場として成長させ、施設をはじめ、まちの空間デザインにつなげていくことを目指します。情報化してまちのブランドイメージをあげていくことは重要ですからロゴマークを作ってイメージを共有していくことも重要になってきます。

## —まちづくりの大義

今この地域のまちづくりを考えるうえで、リニアインパクトを抜きに語ることはできません。

2027年のリニア開通に向けて、名古屋が単なる通過点にならないで、人がこの地域に留まるようにするためには、周辺地域を含めた名古屋大都市圏の魅力を高めなくてははいけません。

高蔵寺ニュータウンにおいては、この名古屋大都市圏の住宅地としての地域ブランドを形成することが、まちの再生の切り口になってくるのだと思っています。そのためにも、周辺の桃花台や志段味とも連携することで、郊外住宅地エリアとしてブランドを確立することが重要になってきます。これは一つのま

ちの計画なのではなく、リニアインパクトによる流入人口増加を見据えた名古屋大都市圏全体に影響を与える構想なのです。

まちづくりを考える際には、「駅周辺施設の老朽化」や「公園の整備」などといった地域の事情から発想しては駄目です。自分たちのまちが活性化したときに、周りの地域にどのような影響を与えるのかということを見つけ、アピールすることが大事なのです。これこそが「まちづくりの大義」になるのです。

## — 金山のまちづくりの大義を考える

金山のまちづくりを考えるにおいても、金山が名古屋大都市圏においてどのような役割を担うべきかということ、すなわち「まちづくりの大義」を見つけていかなければいけません。その際にヒントとなるのが、金山の地形的、都市構造的な特性です。

金山は名古屋城と熱田を結ぶ都市軸上にあり、熱田台地という安定した地盤を持ち、鉄道交通網の結節点に位置付けられています。こうした「名古屋のへそ」とも言える都市構造的な特性が、金山の「まちづくりの大義」を見つける上での切り口になるのではないのでしょうか。

## — 最後に

金山のように既に成熟した街が未来を見据えたとき、より良い空間をつくるためにはどうすればよいのでしょうか。どんな建物をつくり、どんな道を通すのかということよりも前に、金山にどんなアクティビティが必要かという発想をすることが重要です。様々なアクティビティが立ち上がり、そのアクティビティに見合った空間にまちをつくり変えていくことが大切なのです。

## ◆ Editor's Note

この会の立ち上げにあたっては、この地区の事情が大きく関わっていたことは否定のしようがありません。今回、服部先生のお話を聴いて心に突き刺さりました。気持ちを新たに歩を進めようと決意しました。

紙面には記載されていませんが、服部先生のお話の中で UDCK の創設者でもある北沢猛氏のことが触れられました。UDCK のホームページには、北沢氏によるアーバンデザインセンターの構想が出ています。ぜひご覧ください。

UDCK HP <http://www.udck.jp/>  
s m t HP <http://www.smt.jp/>

## ◆ Introduction

今回の語る会は、まちの核になる「文化施設」にスポットライトをあてました。そこで、語る会の参加メンバーである下記の施設の方々から、それぞれの活動についてお話を頂きました。

- ◆名古屋フィルハーモニー交響楽団  
髙村 麻美子 氏
- ◆名古屋ポストン美術館  
小嶋 浩嗣 氏
- ◆名古屋都市センター  
加賀谷 歩三 氏

6月15日に開催された名古屋市の『第一回金山駅周辺まちづくり構想懇談会』の報告がありました。

- ◆名古屋市住宅都市局まちづくり企画課  
田村 正史 氏

なお、2015年は名古屋フィルハーモニー交響楽団が創立50周年を迎えるそうです。金山に集う仲間として一緒に盛り立てていきましょう！

## ◆ 第3回 金山地区のまちづくりを語る会 開催のご案内 ◆

- ◆日 時：平成27年9月2日（水）午後3時30分から午後5時30分まで
- ◆場 所：名古屋都市センター11階 ホール 中区金山町1丁目1番（金山南ビル）  
※金山南ビル内中央にあるシースルーエレベーターをご利用ください。
- ◆内 容：①各団体のまちづくり活動について（情報交換）  
②WS「いま考える わたしたちの金山」（仮題）  
ファシリテーター：パブリックハーツ株式会社 水谷 香織 さん
- ◆その他：当会終了後に交流会を予定しています。併せてご参加ください。  
時 間：午後5時45分から 会 費：3500円

今回は参加者の皆さんと一緒に、気軽に金山のまちのことを話し合いたいと考えています！  
皆さんのご参加をお待ちしています！